公益財団法人８０２０推進財団

令和７年度　歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

１．事 業 名：東久留米市内の保育園における口腔衛生指導

２．申請者名：一般社団法人東京都東久留米市歯科医師会　会長　小玉　剛

３．実施組織：一般社団法人東京都東久留米市歯科医師会
公益社団法人東京都歯科衛生士会
東久留米市役所

４．事業の概要：幼いころから良い生活習慣を身に着けることは大切です。歯磨きを通じて歯科疾患予防に関する適切な習慣の定着を図り、あわせてよい食習慣・生活習慣を身に着けてもらうことを目的として事業を計画した。8020 達成へのはじめの一歩として、乳幼児期から歯の健康の大切さを体験してもらい、生涯における航空の健康に対して家庭でも気づいてもらえるようことを目標とした。特に４～６歳時にう蝕の増加が目立つ傾向にあり、この年齢期は行政が行う歯科検診がないことから、令和７年度においても東久留米市内のすべての公立保育園および希望する民営などの保育園を対象にお口の健康の大切さを伝えることとした。

５．事業の内容：令和７年に東久留米市内の公立保育園４園および公設民営保育園２園および希望する民営保育園において歯磨き指導を行うこととした。「ポンタ危機一髪」というパネルシアターにて歯科衛生士及び園医が協力し、歯ブラシの大切さ、生活のリズムを整えることの大切さを伝えることとした。さらに３つのお約束として①食べたら歯を磨く事・②好き嫌いをせず、よく噛んで食べる事・③甘いものを食べ過ぎない事を伝えることとした。５才児クラスでは顎模型を使用して歯科衛生士が歯ブラシの当て方・磨く順番・磨く時間の目安を説明することとした。その際、歯ブラシを実際に手に取ってもらい持ち方の練習・肘のはり方の練習を行った。また、タペストリーを用いて歯ブラシ時にしてはいけない事を〇×形式でクイズとして学ぶこととした。歯磨き後のうがいの仕方も絵や歯科衛生士・園医の口の動きを見せて練習してもらった。歯磨きカレンダーを用意して、歯磨きに楽しみをもって良い習慣付けができるように全員に配布した。さらに保護者向けにパンフレット資料を配布した。歯科衛生指導後は各家庭にアンケートを行い、お子さんの歯・口腔への関心の変化、保護者の方の関心の有無・変化を調査することとした。

６．実施後の評価（今後の課題）：口腔衛生指導に関して全体的にスムーズな進行を行うことができた。
大多数の児童が集中力を切らすことなく、タペストリー・〇×クイズ・歯磨き指導に参加した。
アンケート結果より、歯科検診の受診率は約半数となっており、歯科受診率をどのように上げるかが課題と考えられる。また、う蝕がゼロの児童と多数のう蝕を持つ児童の格差が目立つように感じるため、その児童をどのように歯科受診へ導くかも課題といえる。